

横浜市訪問看護師【小児看護】キャリアラダー・発達別訪問看護師チェック表 R8年3月版

詳細版

CDP1段階

評価基準：各CDPの評価項目ごとに、「未経験」の場合は○をつけ、
 その他は自己評価に1～5の5段階でチェックする。

- 評価の目安
- 1 『できない』
 - 2 『指示や確認がないと行動できない』
 - 3 『促しがあれば行動できる』
 - 4 『多少の促しは必要であるが行動できる』
 - 5 『できる』

CDP1（訪問看護ステーションの基本的機能・役割を知り、スタッフとして同行訪問できる）		回（月日）			回（月日）			回（月日）		
ドメイン	CDP1（詳細版）	未経験	自己評価	育成者評価	未経験	自己評価	育成者評価	未経験	自己評価	育成者評価
	新卒・新任									
在宅看護過程	助言のもと、小児領域における主な疾患の病態や特徴を理解する									
	助言のもと、小児看護に必要な医学的管理（導尿、吸引、胃ろう、経管栄養、酸素療法、気管切開、人工呼吸器等）に関する技術を習得する									
	助言のもと、子どもの成長発達段階に応じた身体的・精神的特徴を理解する									
	成長発達を促す遊びの提供が、子どもへの看護援助の一つであることを理解する									
	子どもの権利に基づき、理解力や意思決定力の評価が必要であることを理解する 子どもの話を聴く									
社会資源	訪問先の子どもの過ごしを知る ※家庭、保育、教育、社会参加等の場									
	訪問先の子どもを取り巻く人的・社会的・経済的環境を知る									
	訪問先の子どもが利用している制度・サービスを知る									
	訪問先の子どもを支えるケアチームにおける各職種とその役割を知る									
家族支援	指導を受けて、家族員（親・きょうだい児等）の発達段階とそれぞれの役割を理解する									
	指導を受けて、在宅療養をする子どもを持つ家族の特徴や心理状態を理解する									
	家族一人ひとりの意思・価値観を知る									
	対象となる子どもを含む家族全体を支援する役割が、看護師にあることを理解する									
	きょうだい児の言葉や様子から、きょうだい児の思いを知る 子どものケアと家族の生活のバランスについて、子ども・母親・父親、きょうだい児の様子・言動から捉える									
自己啓発・自己学習	小児訪問看護に関する研修を受講する									
	児童福祉法、障害者総合支援法、医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の目的を理解する									

横浜市訪問看護師【小児看護】キャリアラダー・発達別訪問看護師チェック表 R8年3月版

詳細版

CDP2段階

評価基準：各CDPの評価項目ごとに、「未経験」の場合は○をつけ、
 その他は自己評価に1～5の5段階でチェックする。
 評価の目安

- 1 『できない』
- 2 『指示や確認がないと行動できない』
- 3 『促しがあれば行動できる』
- 4 『多少の促しは必要であるが行動できる』
- 5 『できる』

CDP2（訪問看護計画に基づき単独訪問でき、報告、連絡、相談ができる）		回(月日)			回(月日)		
ドメイン	CDP2（詳細版）	未経験	自己評価	育成者評価	未経験	自己評価	育成者評価
	分類						
	一人立ち						
在宅看護過程	小児領域に必要な知識を、対象となる子どもの看護に結びつけて活用する						
	小児看護に必要な医学的管理（導尿、吸引、胃ろう、経管栄養、酸素療法、気管切開、人工呼吸器）の技術を看護計画に基づいて提供する						
	災害などの予期せぬ状況に備え、「個別避難計画」や「わたしの災害対策ファイル」の内容を理解し、対象者にその必要性を説明したうえで、必要な情報を収集する。						
	急変時の方針をもとに、個別性の高い急変を判断し対応する						
	子どもの成長発達に合わせた個別的な看護計画を立案し、安全・安楽に配慮して実施する						
	子どもの成長発達を促す遊びを取り入れた看護を実践する						
	子どもが主体であるという倫理観に基づき、意思決定支援の判断を行い、チームで話し合う						
	子どもの理解度に合わせて説明する						
社会資源	制度・サービス	在宅療養する子どもに関わる医療制度（小児慢性特定疾病医療給付制度、特定疾患医療給付制度、自立支援医療制度）を知る					
		在宅療養する子どもに関わる福祉制度（身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者福祉手帳等）を知る					
		在宅療養する子どもに対する訪問看護の制度と役割を知る					
		在宅療養する子どもが利用できるサービス（居宅介護、訪問入浴、住宅改修、児童発達支援サービス、放課後等デイサービス、短期入所・日中一時支援等、在宅リハビリテーション事業）を知る					
	関係機関	横浜型医療的ケア児・者等コーディネーターの役割を知る					
		在宅療養する子どもを支援する医療の場（地域療育センター、多機能型拠点、訪問看護ステーション、病院、診療所等）を知る					
		在宅療養する子どもを支援する福祉の場（障害福祉サービス事業所、相談支援事業所、福祉保健センター、基幹相談支援センター、障害者地域活動ホーム、障害児・者入所施設等）を知る					
		在宅療養する子どもを支援する保育・教育の場（地域子育て支援拠点、保育園、幼稚園、特別支援教育総合センター、小学校・中学校、特別支援学校、訪問教育等）を知る					
家族支援	家族員（親・きょうだい児等）の発達段階とそれぞれの役割を把握し、アセスメントする						
	家族の発言や様子から、家族の思いやニーズを把握し、アセスメントする						
	看護計画に基づき、子どもと家族のライフスタイルや価値観を尊重して看護援助を提供する						
	在宅における子どもの医療的ケアや日常の世話を家族が習得できるよう、看護計画に基づいて支援する						
	在宅における子どもの医療的ケアや日常の世話を家族が習得できることを目指し、その過程を看護計画に基づいて支援する						
	子どもの主体的な過ごし方とそれに対応する家族の生活について、母親・父親それぞれから話を聞き、思いや考えを知る						
	きょうだい児の言葉や様子から、その子らしく過ごさせているか把握する						
子どものケアと家族の生活のバランスにおける家族の葛藤から、支援ニーズを把握する							
自己啓発・自己学習	人権、倫理、権利擁護について学ぶ						

横浜市訪問看護師【小児看護】キャリアラダー・発達別訪問看護師チェック表 R8年3月版

詳細版

CDP3段階

評価基準：各CDPの評価項目ごとに、「未経験」の場合は○をつけ、
 その他は自己評価に1～5の5段階でチェックする。

評価の目安

- 1 『できない』
- 2 『指示や確認がないと行動できない』
- 3 『促しがあれば行動できる』
- 4 『多少の促しは必要であるが行動できる』
- 5 『できる』

CDP3（訪問看護計画が立案でき、状況判断に応じた24時間の対応ができる）		回(月日)			回(月日)		
ドメイン	CDP3（詳細版）	未 経 験	自 己 評 価	育 成 者 評 価	未 経 験	自 己 評 価	育 成 者 評 価
	一人前						
在宅看護過程	小児領域に必要な知識を、対象となる子どもの個別的な看護に応用する						
	子どもの体調変化を見極め、看護診断に基づいた医学的管理および必要なケアを提供する						
	災害などの予期せぬ状況に備え、「個別避難計画」の作成や「わたしの災害対策ファイル」の活用を進める。						
	子育ての方針や子どもと家族のQOL、急変時の方針を把握し、個別的な看護計画を立案・実施する						
	発達段階に応じた長期的な視点を持って、個別的な看護計画を立案・修正し、実施する						
	遊びの提供を通して、子どもの状態や人との関わりの様子から、在宅で子どもらしく過ごさせているかを把握する						
	子どもと家族の意思決定プロセスに参加し、看護師としての視点や意見を伝える						
	子どもの様子から受け止めの状況を判断し、子どもの意思表示を促す						
社会資源	必要な看護を提供するため、制度を活用しながら関係者と調整する						
	子どもの今後の状況や発達を見据え、社会資源の必要性をアセスメントし、必要時に社会資源につなぐ						
	在宅療養する子どもを支える関係者に働きかけ、協力を得られるように関わる 周回と調整を図りながら、横浜型医療的ケア児・者等コーディネーターに相談する						
家族支援	虐待や不適切養育等の特殊な課題や困難を抱えていないか、アセスメントする						
	家族員それぞれが役割を果たし、家族として成長していく過程を支援する						
	子どもの変化や成長を家族と共有し、家族の関係性や役割の構築を支援する						
	子どもと家族のライフスタイルや価値観を尊重した看護計画を立案・実施する						
	家族の強みと主体性を活かした具体的な解決策を提示する						
	子どもの主体的な過ごし方とそれに対応する家族の生活について、母親と父親それぞれの思いや考えの違いを把握し、家族機能の発展につながるよう関わる						
自己啓発・自己学習	きょうだい児がその子らしく過ごせるよう、在宅療養している子どもとあわせて、発達や健康上の課題に配慮しながら大切に关わる						
	その家族らしく過ごせるよう、家族の認識や希望に基づいて支援する						
	他事業所と交流し、さまざまな支援方法や知識を得る 自身の看護実践を事例として整理し、報告する						

横浜市訪問看護師【小児看護】キャリアラダー・発達別訪問看護師チェック表 R8年3月版

詳細版

CDP4段階

評価基準：各CDPの評価項目ごとに、「未経験」の場合は○をつけ、
 その他は自己評価に1～5の5段階でチェックする。

- 評価の目安
- 1 『できない』
 - 2 『指示や確認がないと行動できない』
 - 3 『促しがあれば行動できる』
 - 4 『多少の促しは必要であるが行動できる』
 - 5 『できる』

CDP4（利用者の支援に関する環境整備やチーム作りができる）		回（月 日）			回（月 日）		
ドメイン	CDP4（詳細版）	未経験	自己評価	育成者評価	未経験	自己評価	育成者評価
	中堅						
在宅看護過程	小児領域に必要な知識を、対象となる子どもの個別的な看護に結びつけて共有し、看護実践の指導に関わっている						
	将来を見据えて、子どもにとって最善となる看護（予防的ケアやセルフケア等）を提案する						
	災害などの予期せぬ状況に備え、作成した「個別避難計画」や「わたしの災害対策ファイル」を対象者のケアチーム内で共有し、実効性を高めるよう調整する。						
	あらゆる知見を統合し、全人的な視点から子どものQOL向上に向けた看護計画を立案・修正し、実施する						
	意思決定のプロセスにおいて、揺れ動く子どもと家族それぞれの思いに寄り添い、子どもの意思を尊重しながら、家族とともに意思決定できるよう支援する						
	法的・文化的配慮など多方面から、子どもと家族および関係者を擁護し、意思決定の方法を提案する						
社会資源	長期的な視野を持って子どもの今後の状況や発達を見通し、必要に応じて社会資源を調整する						
	在宅療養する子どもを支える関係者の立場や役割を理解した上で、関係者との円滑な連携と協働を図る						
	横浜型医療的ケア児・者等コーディネーターと協働し、必要な社会資源につなぐ役割を担う						
家族支援	虐待や不適切養育などの特殊な課題や困難を抱える家族に対し、関係調整や役割の再構築を支援する						
	子どもと家族のライフスタイルや価値観を尊重した療養生活の継続に向けて、医療・福祉・教育の関係職種とチームで支援する						
	療養生活の継続において、家族の強みと主体性を活かせるよう、医療・福祉・教育の関係職種とチームで支援する						
自己啓発・自己学習	今後の状況を見据え、家族が子どもの成長発達の促しや医療的ケアの自己管理に向けた関わりをもてるよう支援する						
	他事業所との交流などを通して得た知識や経験を、自事業所での実践に反映する 先行研究に照らして自身の看護実践を事例としてまとめ、研究として発表する						

横浜市訪問看護師【小児看護】キャリアラダー・発達別訪問看護師チェック表 R8年3月版

詳細版

CDP5段階

評価基準：各CDPの評価項目ごとに、「未経験」の場合は○をつけ、
 その他は自己評価に1～5の5段階でチェックする。

- 評価の目安
- 1 『できない』
 - 2 『指示や確認がないと行動できない』
 - 3 『促しがあれば行動できる』
 - 4 『多少の促しは必要であるが行動できる』
 - 5 『できる』

CDP5（訪問看護の質向上に関わり、リーダーシップをとることができる）		回（月 日）			回（月 日）		
ドメイン	CDP5（詳細版）	未 経 験	自 己 評 価	育 成 者 評 価	未 経 験	自 己 評 価	育 成 者 評 価
	達人						
在宅看護過程	作成した「個別避難計画」や「わたしの災害対策ファイル」を活用し、災害などの予期せぬ状況に備えた、地域と連携したネットワークづくりを行う						
	対象者（子どもと家族）および関わる人々の多様な価値観を尊重しながら、関係者間を調整し、倫理的問題を解決に向けて関わる						
社会資源	その子どもと家族らしい生活や社会活動が継続できる方法を模索し、必要に応じて社会資源を調整する						
	在宅療養する子どもを支える関係者の立場や役割を理解した上で、関係者と地域のネットワークを構築する 横浜型医療的ケア児・者等コーディネーターに準じ、他者や他事業所からの相談に応じる						
家族支援	虐待や不適切養育などの特殊な課題や困難を抱える家族について、多職種で支援する体制を構築する						
	子どもと家族のライフスタイルや価値観を尊重した療養生活継続に向けて、地域での支援ネットワークを構築する						
	療養生活の継続において、家族の強みと主体性を活かせるよう、医療・福祉・教育の関係職種と連携した地域のネットワークを構築する						
自己啓発 ・自己学習	これまでの実践や現在の役割に必要な知識・技術を高めるために、新しい知見を得たり、外部と積極的に交流する						
	看護師の看護実践を研究としてまとめるプロセスを支援する						